

パーソナリティの発達とは



今回は放送大学大学院文化科学研究科『成人発達心理学』第8章「パーソナリティの発達から人のパーソナリティについて引用し皆さんと考察したいと思います。」

人について知るためには3つの水準があるとされています。

(一) 他者との比較による人の特性傾向

(二) 状況の中でのその人の関心のありか

(三) その人の描くライフストーリー

このうち、「一は「特性」と呼ばれ、5因子モデルで表されます。その5つの特性とは、

神経症傾向(N)・・・過剰反応、不安定さ

外向性(E)・・・付き合いや活発な活動を好む傾向

経験に対する開放性(O)・・・新しい考えを受入れる

協調性(A)・・・無私の関心、信頼、親切心

誠実さ(C)・・・まじめ、自己統制、達成への意志

特性論によれば、個人の観察可能な行動は、年齢規範の期待、人生経験、認知発達、身体的成熟によって変わって来るのですが、特性そのものは

変わらないといわれています。

5因子モデルでは、「人格はその人の人生の道筋に影響する」と考えます。つまり、経験が人格変化をもたらすことはほとんどなく、人の人生の形はその人の人格の特性に強く影響されているのだということです。

ただし、成人期を通じてアイデンティティは一定ではないので、人格特性が一定していても、自分が持つそうした特性への気付きや、それに従ってより適応しやすい行動を開発する能力などは、時間経過の中で変化していくはずだと考えられています。

例えば、誠実性(C)が非常に高く、自制的で完璧主義であることは、職業的成功には好ましい要素かもしれませんが、その人の子どもは、気持ちで窮屈に感じてしまうかもしれません。

もし、青年期に達した子どもが、そのような親の態度を批判したり、その変更を求めたりした場合、親としては葛藤に直面することでしょうが、その時初めて、その親は自分の誠実性がトラブルを引き起こしていることに気付かされるかもしれません。その人は、生来の性向である完璧主義をやめることは出来ないかもしれませんが、この新しい気付きが、自己理解を高め、10代の子どもの行動や能力が、自分の高い(あるいは厳しい)基準に合致しなかったとしても、それを同情的に、また辛抱強く待てるようになるかもしれません。

我が家の場合、わたしがよく「お母さん、これでも外ではしっかりしてるって言われるんだよ」と子どもたちが言う、「へえ、何もしらないんだね」と冷たい視線を浴びせられたものです。

話しは飛びますが、子どもは親が不機嫌にしていると自分が何か悪いことをしたのでは、と不安になると聞いたことがあるので、わたしはよく子どもたちに「お母さん、今こんなことで悩んでるんだ」と相談してました。親の弱みを子どもにさらけ出すことで、子どもも安心して色んなことを話してくれたように思います。

第IIの水準は、その人が人生上の問題をどうやって解決しようとするのか、その人にとつての重要な人生目標、関心の所在がどこにあるのかということから人を理解しようとするものです。これは、年齢によって変化します。

第IIIの水準は正に、どう生きるかということですから、アイデンティティ、あるいはライフストーリー、自我の形成と呼ばれています。

自我は成人期にいくつかの発達段階を通過すると言われています。

持って生まれた特性は特に成人期以降は変化しないと言われています。でもそこで自分はどうだめなんだとガツカリしないでください。大人でも死ぬまで発達を続けていくのです。今回はこの自我について、もう少し書くことができたらと思っています。 辺見妙子

寄付や支援をいただいた方々6月 順不同

支援金 渡部鋭幸様、森雅英様、タムラヒデコ様、表町町の皆様、橋本よし子様、尾形智美様、ヒューマンビジョンの会様、ぶんぶんフィルムズ様

レイダーフォーの「寄付を頂きました方のご紹介は、ホームページにお名前掲載のリターンをお選びの方をご紹介させて頂きます。」

エデュカーレ編集部様、水田宜法様

片岡弘子様、汐見稔幸様、小平神明幼稚園様、

曹洞宗福島青年会様、名出真一様、宮崎雅文様、

村田則子様、土田英順様、高橋典子様、

渡辺雅宏様、石橋えり子様、石丸真理子様、

富士基純様、渡辺一枝様、宮下智行様、成元哲様、

宮崎幸子様、杉山浩之様、吉田うらら様、

荻野雅世様、細江卓朗様、下村一彦様、

藤本さと子様、嶋村仁志様、清水義広様、

吉田寛丸様、高橋千春様、東英明様、松澤菜緒様、

岩戸五郎様、星川淳様、佐久間美智雄様、

小笠原公子様、阿部早百合様、杉本かお里様、

小森伸一様、鈴木聡之様、溝口義朗様、

村上博文様、渡辺雅宏様、伊藤大介様、

木村日出夫様、

御小柴慶治様、

片山誠様、須釜良二様、

鈴木秀伸様、古野間久様

